

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104969
法人名	医療法人 順風会
事業所名	在宅複合施設 康復センター星岡 グループホーム星岡
所在地	松山市星岡町二丁目8番24号
自己評価作成日	平成 27 年 8 月 20 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 9 月 17 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームの理念は ①有する機能を生かす支援をしていきたい。 ②地域との交流の中で家庭的で話し合いの出来る楽しい環境づくりの支援。 ③お年寄りを敬う気持ちを忘れない。 です。この理念基に介護スタッフによる細やかな介護をさせて頂いております。①の理念については、楽しい・笑顔の耐えないホームであること。②の理念については、居心地の良いホームであること。③の理念については、寝たきりにならない・させないホームであること。を常に意識して健康で明るい生活が送れるように支援しています。そして、地域の方にも関わって頂き、生き甲斐が持てるように支援しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣に法人の母体病院と老人保健施設があり、事業所は、ショートステイやデイサービスと一緒に入っている総合福祉施設の1階にある。利用者の健康管理や緊急時の対応等は、密接な医療連携を活かした体制となっており、利用者や家族は、安心して生活ができる。地域の行事に参加したり、幼稚園との交流や、中学生・高校生との交流を積極的に行っている。職員の研修参加や指導体制についても、法人として確立されたものがあり、施設内外の勉強会の参加の機会が豊富である。認知症の介護手法「ユマニチュード」を取り入れ、利用者の心身ともに穏やかな生活の支援となり、非常に高く評価できる点である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム星岡

(ユニット名) 星組

記入者(管理者)

氏 名 井上 美恵子

評価完了日 27年 8月 20日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 朝礼やミーティング、GH会議の前に同席のメンバー全員で理念を唱和し再確認や意識づけをしている。	
			(外部評価) 法人の理念を基に、職員全員で話し合い事業所独自の理念を作成して、各ユニットに掲示し、利用者の日々の暮らしを支えている。理念に基づいた年間目標を立案、毎月行われる職員会で、月単位の目標を考え、ユニットに掲示し実践につなげている。新人職員には、入職時に理念の趣旨を説明し、共有するようにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 2ヶ月毎に星岡町のボランティアの方々と喫茶会を開催したり、星岡町の防災訓練や盆踊り大会には毎年参加している。また、認定こども園の園児との交流も継続して開催している。	
			(外部評価) 事業所には定期的に幼稚園児の訪問があり、歌や踊りを楽しんだり、中学生の吹奏楽演奏会や高校生の体験学習の受け入れがあり、積極的に交流を行っている。町内会に加入しており、敬老会の案内を受けている。地区の盆踊りや夏祭りや防災訓練に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 中・高の学生さんの介護体験などを受け入れ、実践を通して触れ合い、認知症の方々への理解を深めていただいている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回の会議の場を設けており、GHでの取り組みやサービスの状況を報告し、会議の中で出た意見やアドバイスをサービス向上に活かしている。また、外部から講師を呼び勉強会を開いている。	
			(外部評価) 運営推進会議には、利用者や家族、町内会長、認定こども園長、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員、歯科衛生士、地域住民等の参加者を得て、2か月に1回開催している。会議では、入居者情報及び活動報告を行うと共に、参加者の要望や意見を聞いている。また、勉強会を企画したり、家族会で運営推進会議の情報を報告し理解を得ている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 更新申請時や運営推進会議に参加して頂いている時などを利用し、お話を伺ったり質問をさせて頂いている。	
			(外部評価) 市職員及び地域包括支援センター職員は、運営推進会議に出席して、事業所の実情を把握するとともに、情報の提供や成年後見制度についての助言を行っている。また、年4回グループホーム連絡協議会等が開催する研修会に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 月1回の身体拘束委員会などで、勉強会に参加した職員が他職員に教えている。また、身体拘束の定義などを掲示し常に意識付けをしている。	
			(外部評価) 法人合同の身体拘束委員会を月1回開催しており、定期的に身体拘束について勉強会が行われ、身体拘束をしないケアについて理解を深めている。各ユニットの玄関は、利用者の安全確保のため、デイの送迎車両が頻繁に出入りする時間を除き、原則施錠されていない。送迎の時間帯は利用者の希望に応じて声かけを行い、職員と一緒に散歩に行くようにしている。事業所では、言葉を含めて、身体拘束をしないケアに取り組んでいることを家族に説明している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会に参加した職員からの報告や委員会の中で勉強する機会を作っている。また、職員がストレスを溜めないように休憩を十分取るなどの配慮をしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議で講師を招き、勉強会を行い伝達している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時に利用料の説明に併せて、起こりうるリスクについても詳しく説明し、同意を得てから契約している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会ではご家族同士が話をする時間を取り入れており、その中で出た要望などをお伺いしている。また、都度の面会時にもお伺いしている。 (外部評価) 家族会を年1回開催し、家族のみで話しやすい雰囲気の中で要望や意見を出し合い、家族の本音を聞き取り、事業所とも意見交換を行い、協働して利用者のケアを行うようにしている。さらに、利用者には日々の暮らしの中で、家族には面会時や運営推進会議で、要望や意見を聞いている。出された意見は職員間で話し合い、利用者のサービスの向上に活かしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回のメイト会で意見や提案を出し、検討をしている。普段から意見を言いやすい環境でもある。また、月1回GH会議もしており事務長にも意見・提案・相談をする機会がある。 (外部評価) 職員全員が参加して、月1回メイト会を開催されており、各委員会から情報伝達や運営に関する意見を出し合っている。管理者は、出された意見にはその都度対応をしている。管理者は、年1回個人面談を行い、職員と意思疎通を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の資格取得に向け、情報提供したり取得後は給料に反映している。 休憩時間・休憩場所を設置し、十分休憩出来るようにしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 全ての職員がサービス向上委員会に入っており勉強する機会がある。 内部・外部でも研修があれば案内している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 石井・久谷地区のGHとの交流会が年4回程度あり、意見交換や勉強会を行っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前の見学時や正式入居時にご本人やご家族との会話で要望や不安に思っている事などをお伺いして、安心感を持って頂けるよう心掛けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族の困り事や要望などをお伺いし、入居者さん本人がより良い生活が出来るように一緒に考えるようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居時のアセスメントを十分に実施し、ご本人やご家族が必要としているだろう思いを聞きだせるように努めている。その後同意があれば、施設として他のサービスを含めた対応を提案している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一人ひとりの力に応じた作業を一緒に行うなど、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 職員だけでご本人を支えるのではなく、ご家族にも出来るだけ協力して頂き共にご本人を支える関係を築くようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご家族と一緒に外出し馴染みの場所に行けるように支援している。 (外部評価) 利用者や家族から、これまでの馴染みの人や場所の情報を聞き取っている。総合福祉施設内の美容室から迎えが来て行かれる利用者もいる。友人の面会があり、アカペラで歌を歌い楽しんだり、家族の協力を得て生まれ育った野村町に出かけることもある。また、入居前からの馴染みの食堂に行くなど利用者の希望に沿うよう配慮しており、出かける際は、職員が同行するようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 皆で出来るレクを行ったり、各居室で交流が出来る環境を作り支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 長期入院になられた方のお見舞いに行ったり、情報伝達をし、ケア継続に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ご自分で言える方も、言えない方も日常の様子を観察し、思いを汲み取る努力をしている。 その方の今までの生活やご家族からの情報も参考にしている。 (外部評価) 利用者や家族の一人ひとりから、思いや要望を聞き取るよう日々心がけており、認知症の進行により意思疎通が困難な利用者には、ゆっくりと声かけしながら表情や行動等で思いや意向を把握し、「私の基本情報シート」に記録して、職員間で情報共有できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 各機関との情報を共有することでサービス経過の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 十分な情報収集の上で計画に反映させ、日々の暮らしの中から有する能力等の把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) メイト間では月1回入居者さんの変化をメイト会で話合っており、プラン更新時には意見を提出している。そして、ケアマネが関係者を集め、サービス担当者会議を行っている。	
			(外部評価) 利用者や家族の要望や職員の意見を聞いて、職員全員で話し合い、介護計画を介護支援専門員が作成している。利用者の状況が変われば、その都度新たな介護計画を作成している。介護計画の実践状況は、1日の利用者の記録に残し、職員全員で把握している。また、3か月に1回モニタリングを行い、介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子やケアの結果などを個別記録に記入したり、職員内で情報を共有し実践に活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) その時に生じるニーズに合わせ柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域のボランティアの方達との交流や地域の園児達との交流を行い、楽しんで頂けるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 定期受診だけでなく突発的な発熱などでもすぐに掛かり付け の病院を受診できるように努めている。 (外部評価) 緊急時は、母体病院の協力医が24時間体制で対応できるた め、入居時にかかりつけ医の変更を希望する利用者が多い。 歯科の往診はある。眼科・耳鼻咽喉科等専門外来に通院する 利用者もあり、家族の付き添いで通院している。家族が同行 できない場合は、職員が受診介助を行い、家族に受診状況の 報告をしている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 利用者の体調変化を看護師と相談し、適切な受診や看護が受 けられるよう支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 病院関係者との情報交換や相談を行いご家族や看護師・職員 で共有している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所時にある程度の方角性を話し合っている。 必要になった段階でご家族・主治医・看護師と十分な話し合 いをし、今後の事を決定している。 (外部評価) 今までに、利用者や家族の要望に応え1名の看取りを行って いる。入居時に、看取りの意向を確認し、重度化した場合に は、その都度説明を行って家族の同意を得ている。母体病院 の協力があり、医療体制は整っている。また、利用者の重度 化や終末期に向けた勉強会を行うなど、職員の不安の軽減が 図れるような取組みをしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 委員会で勉強した事についてシュミレーションを行い、職員全体に周知している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 最低年2回の避難訓練を行い、入居者さんの安全な避難方法を確認したり災害時の協力を星岡町内会長にもお願いしている。これは、施設と星岡町が災害協定を締結しており、契約書も交わしている。次回GHでの出火を想定した消防訓練の際には、星岡町へ参加を促したいと思う。 (外部評価) 総合福祉施設全体で年2回の避難訓練を実施している。他の部署からの応援が受けられる体制が整備されている。事業所の避難訓練には、民生委員やボランティアの方々も参加している。事業所が地域の避難場所として指定されていることもあり、町内会との連携は図られており、備蓄品も整備されている。	事業所の災害対策における職員の協力を図るため、災害時の職員連絡網が整備され連絡手順は職員全員に伝わっているが、実践の訓練をしていないため、連絡体制を再確認する意味でも、職員の周知徹底が図られることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者さんを敬う気持ちを忘れないよう理念に掲げて唱和し、プライドやプライバシーを損なわないよう言葉遣いに注意している。 (外部評価) 日常のケアや声かけなどあらゆる場面で、利用者の不快にならないよう気を付けて支援している。認知症の介護手法「ユマニチュード」を取り入れ、利用者が心身ともに良い状態で生活できるように支援している。排泄や入浴時へのプライバシーの配慮もされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ご本人の思いや希望で自己決定に結び付けている。表出出来ない入居者さんは表情やしぐさなどから思いを汲み取り、自己決定に近づけるよう努力している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースを大切にし、その人のその日のコンディションをみながら、ご本人の希望を訊ねたり察したりしながら過ごして頂いている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 整容や衣類の汚れには気を配っている。自己決定が出来る方には服を選んで頂いている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) お米を洗って頂いたり、テーブルを拭いて頂いたりして生活している場を楽しんで頂くようにしている。 (外部評価) 総合福祉施設の管理栄養士が献立を立て、施設の厨房で調理し、ユニットのキッチンでご飯を炊いて配膳している。職員も食卓と一緒に囲み、介助しながら食べている。嚥下状態に応じて、言語聴覚士に依頼して、リハビリテーションの施設基準を基に食事形態を工夫している。おやつを利用者と一緒に手作りしたり、そうめん流し等の外食を取り入れるなど、利用者が食事を楽しめるような支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取量や水分摂取量を記入し、1日の合計摂取量を計算している。 その人に合った食事量を提供し健康管理に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 入居者さんの状態に合わせた毎食後の歯磨きを行い、就寝時には義歯の洗浄を行っている。 歯科衛生士さんの力も借り清潔を保っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を活用し一人ひとりのリズム・タイミングを把握し、出来るだけトイレでの排泄が可能になるよう支援している。	
			(外部評価) 日中はトイレで排泄できるように支援している。そのため、排泄チェック表を活用して排泄パターンを把握した上で、声かけをしてトイレ誘導している。紙パンツの利用者が多く、オムツの利用者は少ない。夜間のみポータブルトイレを使用するなどして、一人ひとりに合った排泄支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎朝の体操やお茶寒天を提供することで予防している。水分を摂りづらい方は好みの飲み物を準備し、飲んで頂いている。 ナースによる腹部マッサージも適宜行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりゆっくり時間をかけて入浴して頂いている。 歌をうたったり、会話をしてリラックス出来るように工夫している。	
			(外部評価) 主に午後の時間帯を利用して、週3回入浴できるよう、また、身体状態に合わせて、総合福祉施設内のショートステイの特殊浴槽を使用し、利用者の安全と身体的な負担を軽減できるよう配慮している。入浴の苦手な利用者には、無理強いすることなく声かけやタイミングを工夫して支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ソファを置いて休憩して頂いたり、日中の体操やレク等で活動して頂き安眠出来るように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 看護師と連携を取り服薬を支援している。一人ひとりが服薬する薬の内容は個別ファイルで保管しており、職員がいつでも確認できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 皆で一緒にできる事や一人ひとりの楽しみ事など個々に合った事をやって頂き、気分転換が図れるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 季節の催し物に参加したり、散歩をしたり、ご本人の希望を取り入れた企画を立てたり、ご家族と外出されたりしている。 (外部評価) 季節のよい頃には、数人に分けてドライブや利用者の希望で動物園に出かけたり、そうめん流し等外食を楽しめるような支援をしている。近隣の川に生息している鯉を見に行ったり、あじさいや桜等季節の花を見に出かけたりして、気分転換を図っている。日常的に、近くの幼稚園を訪問し、交流を深めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご自分で管理されている方もおられますが、基本的に貴重品は事務所で預からせて頂き必要に応じてお渡ししている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 携帯電話を所持されている方は用事があるときはご自分でかけられご家族や友人とやりとりされています。他の方は必要に応じて対応しております。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節感を感じるカレンダーを作成し貼っています。廊下には季節ごとの行事写真を貼っています。 (外部評価) 各ユニットに玄関があり、ユニットは廊下でつながりドアで仕切られ、自由に行き来ができる。利用者の身体状態に応じて便座の移乗時の負担軽減できる、可動式手すりの位置が左右に異なるタイプのトイレを2機設置し、夏場の暑さ軽減のために扇風機を設置するなど工夫している。リビングルームは、オープンキッチンで食卓とソファがあり、利用者が思い思いの場所でくつろぐことができる。廊下に、利用者と職員と一緒に作った壁飾りや写真が、飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 食堂にソファを置くことで、一人でも気の合った者同士が思い思いに過ごせている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 各居室には馴染みの家具を持ち込まれたり冷蔵庫やテレビ等、希望の物を持ち込んで頂いて居心地良く過ごせるようにしている。 (外部評価) 居室には、利用者の状態に合わせて高低が可能なベッド、ダンス、クローゼット、エアコン、洗面台が備え付けられている。できるだけ自宅で過ごしていた空間に近づけるように、自宅で愛用していた電動車イスを持ち込めるような配慮もしている。居室は掃き出し窓になっていて明るく、利用者はいつでもベランダに出て季節を感じることができ、居心地よく過ごせる空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 入居者さんの身体状況に合わせ、物の配置に気を付けている。また、一人ひとりの理解力に応じ、必要な目印を付けたりしている。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104969
法人名	医療法人 順風会
事業所名	在宅介護複合施設 康復センター星岡 グループホーム星岡
所在地	松山市星岡二丁目8番24号
自己評価作成日	平成 27 年 8 月 20 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 9 月 17 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは①有する機能を生かす支援をしていきたい。②地域との交流の中で家庭的で話し合いの出来る楽しい環境作りの支援。③お年寄りを敬う気持ちを忘れない。という理念を基に介護スタッフによる細やかな介護をさせて頂いております。また①楽しい・笑顔の絶えないホームであること。②居心地の良いホームであること。③寝たきりにならない・させないホームであること。を常に意識し、健康で明るい生活が送れるように支援しています。そして、地域の方にも関わって頂き、生きがいを持てるように支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣に法人の母体病院と老人保健施設があり、事業所は、ショートステイやデイサービスと一緒に入っている総合福祉施設の1階にある。利用者の健康管理や緊急時の対応等は、密接な医療連携を活かした体制となっており、利用者や家族は、安心して生活ができる。地域の行事に参加したり、幼稚園との交流や、中学生・高校生との交流を積極的に行っている。職員の研修参加や指導体制についても、法人として確立されたものがあり、施設内外の勉強会の参加の機会が豊富である。認知症の介護手法「ユマニチュード」を取り入れ、利用者の心身ともに穏やかな生活の支援となり、非常に高く評価できる点である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム星岡

(ユニット名) 花組

記入者(管理者)

氏 名 井上 美恵子

評価完了日 27年 8月 20日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 朝礼やミーティング、GH会議の前に同席のメンバー全員で理念を唱和し再確認や意識づけをしている。	
			(外部評価) 法人の理念を基に、職員全員で話し合い事業所独自の理念を作成して、各ユニットに掲示し、利用者の日々の暮らしを支えている。理念に基づいた年間目標を立案、毎月行われる職員会で、月単位の目標を考え、ユニットに掲示し実践につなげている。新人職員には、入職時に理念の趣旨を説明し、共有するようにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 2ヶ月毎に星岡町のボランティアの方々と喫茶会を開催したり、星岡町の防災訓練や盆踊り大会には毎年参加している。また、認定こども園の園児との交流も継続して開催している。	
			(外部評価) 事業所には定期的に幼稚園児の訪問があり、歌や踊りを楽しんだり、中学生の吹奏楽演奏会や高校生の体験学習の受け入れがあり、積極的に交流を行っている。町内会に加入しており、敬老会の案内を受けている。地区の盆踊りや夏祭りや防災訓練に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 中・高の学生さんの介護体験などを受け入れ、実践を通して触れ合い、認知症の方々への理解を深めていただいている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回の会議の場を設けており、GHでの取り組みやサービスの状況を報告し、会議の中で出た意見やアドバイスをサービス向上に活かしている。また、外部から講師を呼び勉強会を開いている。	
			(外部評価) 運営推進会議には、利用者や家族、町内会長、認定こども園長、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員、歯科衛生士、地域住民等の参加者を得て、2か月に1回開催している。会議では、入居者情報及び活動報告を行うと共に、参加者の要望や意見を聞いている。また、勉強会を企画したり、家族会で運営推進会議の情報を報告し理解を得ている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 更新申請時や運営推進会議に参加して頂いている時などを利用し、お話を伺ったり質問をさせて頂いている。	
			(外部評価) 市職員及び地域包括支援センター職員は、運営推進会議に出席して、事業所の実情を把握するとともに、情報の提供や成年後見制度についての助言を行っている。また、年4回グループホーム連絡協議会等が開催する研修会に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 月1回の身体拘束委員会などで、勉強会に参加した職員が他職員に教えている。また、身体拘束の定義などを掲示し常に意識付けをしている。	
			(外部評価) 法人合同の身体拘束委員会を月1回開催しており、定期的に身体拘束について勉強会が行われ、身体拘束をしないケアについて理解を深めている。各ユニットの玄関は、利用者の安全確保のため、デイの送迎車両が頻繁に出入りする時間を除き、原則施錠されていない。送迎の時間帯は利用者の希望に応じて声かけを行い、職員と一緒に散歩に行くようにしている。事業所では、言葉を含めて、身体拘束をしないケアに取り組んでいることを家族に説明している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会に参加した職員からの報告や委員会の中で勉強する機会を作っている。また、職員がストレスを溜めないように休憩を十分取るなどの配慮をしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議で講師を招き、勉強会を行い伝達している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時に利用料の説明に併せて、起こりうるリスクについても詳しく説明し、同意を得てから契約している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会ではご家族同士が話をする時間を取り入れており、その中で出た要望などをお伺いしている。また、都度の面会時にもお伺いしている。 (外部評価) 家族会を年1回開催し、家族のみで話しやすい雰囲気の中で要望や意見を出し合い、家族の本音を聞き取り、事業所とも意見交換を行い、協働して利用者のケアを行うようにしている。さらに、利用者には日々の暮らしの中で、家族には面会時や運営推進会議で、要望や意見を聞いている。出された意見は職員間で話し合い、利用者のサービスの向上に活かしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回のメイト会で意見や提案を出し、検討をしている。普段から意見を言いやすい環境でもある。また、月1回GH会議もしており事務長にも意見・提案・相談をする機会がある。 (外部評価) 職員全員が参加して、月1回メイト会を開催されており、各委員会から情報伝達や運営に関する意見を出し合っている。管理者は、出された意見にはその都度対応をしている。管理者は、年1回個人面談を行い、職員と意思疎通を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の資格取得に向け、情報提供したり取得後は給料に反映している。 休憩時間・休憩場所を設置し、十分休憩出来るようにしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 全ての職員がサービス向上委員会に入っており勉強する機会がある。 内部・外部でも研修があれば案内している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 石井・久谷地区のGHとの交流会が年4回程度あり、意見交換や勉強会を行っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前の見学時や正式入居時にご本人やご家族との会話で要望や不安に思っている事などをお伺いして、安心感を持って頂けるよう心掛けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族の困り事や要望などをお伺いし、入居者さん本人がより良い生活が出来るように一緒に考えるようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居時のアセスメントを十分に実施し、ご本人やご家族が必要としているだろう思いを聞きだせるように努めている。その後同意があれば、施設として他のサービスを含めた対応を提案している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一人ひとりの力に応じた作業を一緒に行うなど、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 職員だけでご本人を支えるのではなく、ご家族にも出来るだけ協力して頂き共にご本人を支える関係を築くようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご家族と一緒に外出し馴染みの場所に行けるように支援している。 (外部評価) 利用者や家族から、これまでの馴染みの人や場所の情報を聞き取っている。総合福祉施設内の美容室から迎えが来て行かれる利用者もいる。友人の面会があり、アカペラで歌を歌い楽しんだり、家族の協力を得て生まれ育った野村町に出かけることもある。また、入居前からの馴染みの食堂に行くなど利用者の希望に沿うよう配慮しており、出かける際は、職員が同行するようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 皆で出来るレクを行ったり、各居室で交流が出来る環境を作り支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 長期入院になられた方のお見舞いに行ったり、情報伝達をし、ケア継続に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ご自分で言える方も、言えない方も日常の様子を観察し、思いを汲み取る努力をしている。 その方の今までの生活やご家族からの情報も参考にしている。 (外部評価) 利用者や家族の一人ひとりから、思いや要望を聞き取るよう日々心がけており、認知症の進行により意思疎通が困難な利用者には、ゆっくりと声かけしながら表情や行動等で思いや意向を把握し、「私の基本情報シート」に記録して、職員間で情報共有できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 各機関との情報を共有することでサービス経過の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 十分な情報収集の上で計画に反映させ、日々の暮らしの中から有する能力等の把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) メイト間では月1回入居者さんの変化をメイト会で話合っており、プラン更新時には意見を提出している。そして、ケアマネが関係者を集め、サービス担当者会議を行っている。	
			(外部評価) 利用者や家族の要望や職員の意見を聞いて、職員全員で話し合い、介護計画を介護支援専門員が作成している。利用者の状況が変われば、その都度新たな介護計画を作成している。介護計画の実践状況は、1日の利用者の記録に残し、職員全員で把握している。また、3か月に1回モニタリングを行い、介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子やケアの結果などを個別記録に記入したり、職員内で情報を共有し実践に活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) その時に生じるニーズに合わせ柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域のボランティアの方達との交流や地域の園児達との交流を行い、楽しんで頂けるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 定期受診だけでなく突発的な発熱などでもすぐに掛かり付け の病院を受診できるように努めている。 (外部評価) 緊急時は、母体病院の協力医が24時間体制で対応できるた め、入居時にかかりつけ医の変更を希望する利用者が多い。 歯科の往診はある。眼科・耳鼻咽喉科等専門外来に通院する 利用者もあり、家族の付き添いで通院している。家族が同行 できない場合は、職員が受診介助を行い、家族に受診状況の 報告をしている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 利用者の体調変化を看護師と相談し、適切な受診や看護が受 けられるよう支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 病院関係者との情報交換や相談を行いご家族や看護師・職員 で共有している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所時にある程度の方角性を話し合っている。 必要になった段階でご家族・主治医・看護師と十分な話し合 いをし、今後の事を決定している。 (外部評価) 今までに、利用者や家族の要望に応え1名の看取りを行って いる。入居時に、看取りの意向を確認し、重度化した場合に は、その都度説明を行って家族の同意を得ている。母体病院 の協力があり、医療体制は整っている。また、利用者の重度 化や終末期に向けた勉強会を行うなど、職員の不安の軽減が 図れるような取組みをしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 委員会で勉強した事についてシュミレーションを行い、職員全体に周知している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 最低年2回の避難訓練を行い、入居者さんの安全な避難方法を確認したり災害時の協力を星岡町内会長にもお願いしている。これは、施設と星岡町が災害協定を締結しており、契約書も交わしている。次回GHでの出火を想定した消防訓練の際には、星岡町へ参加を促したいと思う。 (外部評価) 総合福祉施設全体で年2回の避難訓練を実施している。他の部署からの応援が受けられる体制が整備されている。事業所の避難訓練には、民生委員やボランティアの方々も参加している。事業所が地域の避難場所として指定されていることもあり、町内会との連携は図られており、備蓄品も整備されている。	事業所の災害対策における職員の協力を図るため、災害時の職員連絡網が整備され連絡手順は職員全員に伝わっているが、実践の訓練をしていないため、連絡体制を再確認する意味でも、職員の周知徹底が図られることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者さんを敬う気持ちを忘れないよう理念に掲げて唱和し、プライドやプライバシーを損なわないよう言葉遣いに注意している。 (外部評価) 日常のケアや声かけなどあらゆる場面で、利用者の不快にならないよう気を付けて支援している。認知症の介護手法「ユマニチュード」を取り入れ、利用者が心身ともに良い状態で生活できるように支援している。排泄や入浴時へのプライバシーの配慮もされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ご本人の思いや希望で自己決定に結び付けている。表出出来ない入居者さんは表情やしぐさなどから思いを汲み取り、自己決定に近づけるよう努力している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースを大切にし、その人のその日のコンディションをみながら、ご本人の希望を訊ねたり察したりしながら過ごして頂いている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 整容や衣類の汚れには気を配っている。自己決定が出来る方には服を選んで頂いている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) お米を洗って頂いたり、テーブルを拭いて頂いたりして生活している場を楽しんで頂くようにしている。	
			(外部評価) 総合福祉施設の管理栄養士が献立を立て、施設の厨房で調理し、ユニットのキッチンでご飯を炊いて配膳している。職員も食卓と一緒に囲み、介助しながら食べている。嚥下状態に応じて、言語聴覚士に依頼して、リハビリテーションの施設基準を基に食事形態を工夫している。おやつを利用者と一緒に手作りしたり、そうめん流し等の外食を取り入れるなど、利用者が食事を楽しめるような支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取量や水分摂取量を記入し、1日の合計摂取量を計算している。 その人に合った食事量を提供し健康管理に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 入居者さんの状態に合わせた毎食後の歯磨きを行い、就寝時には義歯の洗浄を行っている。 歯科衛生士さんの力も借り清潔を保っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を活用し一人ひとりのリズム・タイミングを把握し、出来るだけトイレでの排泄が可能になるよう支援している。	
			(外部評価) 日中はトイレで排泄できるように支援している。そのため、排泄チェック表を活用して排泄パターンを把握した上で、声かけをしてトイレ誘導している。紙パンツの利用者が多く、オムツの利用者は少ない。夜間のみポータブルトイレを使用するなどして、一人ひとりに合った排泄支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎朝の体操やお茶寒天を提供することで予防している。水分を摂りづらい方は好みの飲み物を準備し、飲んで頂いている。 ナースによる腹部マッサージも適宜行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりゆっくり時間をかけて入浴して頂いている。 歌をうたったり、会話をしてリラックス出来るように工夫している。	
			(外部評価) 主に午後の時間帯を利用して、週3回入浴できるよう、また、身体状態に合わせて、総合福祉施設内のショートステイの特殊浴槽を使用し、利用者の安全と身体的な負担を軽減できるよう配慮している。入浴の苦手な利用者には、無理強いすることなく声かけやタイミングを工夫して支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ソファを置いて休憩して頂いたり、日中の体操やレク等で活動して頂き安眠出来るように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 看護師と連携を取り服薬を支援している。一人ひとりが服薬する薬の内容は個別ファイルで保管しており、職員がいつでも確認できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 皆で一緒にできる事や一人ひとりの楽しみ事など個々に合った事をやって頂き、気分転換が図れるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 季節の催し物に参加したり、散歩をしたり、ご本人の希望を取り入れた企画を立てたり、ご家族と外出されたりしている。 (外部評価) 季節のよい頃には、数人に分けてドライブや利用者の希望で動物園に出かけたり、そうめん流し等外食を楽しめるような支援をしている。近隣の川に生息している鯉を見に行ったり、あじさいや桜等季節の花を見に出かけたりして、気分転換を図っている。日常的に、近くの幼稚園を訪問し、交流を深めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご自分で管理されている方もおられますが、基本的に貴重品は事務所で預からせて頂き必要に応じてお渡ししている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 携帯電話を所持されている方は用事があるときはご自分でかけられご家族や友人とやりとりされています。他の方は必要に応じて対応しております。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節感を感じるカレンダーを作成し貼っています。廊下には季節ごとの行事写真を貼っています。 (外部評価) 各ユニットに玄関があり、ユニットは廊下でつながりドアで仕切られ、自由に行き来ができる。利用者の身体状態に応じて便座の移乗時の負担軽減できる、可動式手すりの位置が左右に異なるタイプのトイレを2機設置し、夏場の暑さ軽減のために扇風機を設置するなど工夫している。リビングルームは、オープンキッチンで食卓とソファがあり、利用者が思い思いの場所でくつろぐことができる。廊下に、利用者と職員と一緒に作った壁飾りや写真が、飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 食堂にソファを置くことで、一人でも気の合った者同士が思い思いに過ごせている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 各居室には馴染みの家具を持ち込まれたり冷蔵庫やテレビ等、希望の物を持ち込んで頂いて居心地良く過ごせるようにしている。 (外部評価) 居室には、利用者の状態に合わせて高低が可能なベッド、ダンス、クローゼット、エアコン、洗面台が備え付けられている。できるだけ自宅で過ごしていた空間に近づけるように、自宅で愛用していた電動車イスを持ち込めるような配慮もしている。居室は掃き出し窓になっていて明るく、利用者はいつでもベランダに出て季節を感じることができ、居心地よく過ごせる空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 入居者さんの身体状況に合わせ、物の配置に気を付けている。また、一人ひとりの理解力に応じ、必要な目印を付けたりしている。	